

資料1 教育実習後レポートと参考表

① 教育実習後レポートフォーマット

2014 年度 「教育実習指導」

教育実習後レポート（湘南ひらつかキャンパス）

提出日：2014 年 6 月 27 日（金）（7 月 1 日以降の実習終了者の場合：実習終了後随時）

_____（学部・研究科・科目等履修生） _____（学科・専攻）
学籍番号_____・ _____年次・氏名_____

1. 教育実習について感想や意見を述べて下さい。

①学んだこと

②よくできたと思うこと

③もっと力をつける必要があると思うこと

④実習前の準備として大切だと思うこと

⑤実習終了後、大学の担当教員に相談したいこと

2. 卒業後の進路について

①教職志望の場合（資格教育課程支援室に教員募集の依頼があった場合の連絡のために）

- ・（公立、私立、どちらでも）
- ・（ ）都道府県・（ ）都道府県
- ・（小学校・中学校・高等学校）
- ・（専任・臨時任用教員・非常勤講師）

②教職以外の場合。現時点で決まっていること、わかっている（考えている）こと

3. 2014年7月に受験する教員採用試験について

都道府県（政令指定都市名）	学校種	教科	受験番号
	小・中・高		
	小・中・高		
	小・中・高		

4. 教職課程に対する要望やアイデア

②「もっと力をつける必要があると思うこと

(資料1①の質問用紙 問1-③の回答, 湘南ひらつかキャンパスの教育実習生28名)

～国際経営学科～

A 予想をしていない生徒の反応, 質問などに的確に答えることができなかったことなどを, この身で体験し, 自分自身の経験の浅さ, 知識の不足を改めて思われました。知識力と経験を積むことが, 今の自分に必要不可欠だと感じています。

～情報科学科～

A 生徒に対する言葉がいまいち伝わっていないと感じることが時々あった。どんな言葉を使いどのように語りかければ伝わるのか, 日頃から考えて, 次に備えていきたい。

授業の発問方法があまりよくなかった。場面に応じてどう答えさせるか, 誰が答えられるかを常に意識できるようになりたい。

B 授業のスピードだと思います。初授業の時は指導案の半分も流せませんでした。氏名や机間巡視の時にいかに無駄を失くし, 授業を進める時間や子どもの活動時間にあてられるか, 授業の工夫の仕方は無限大にあり, そこがまだまだだなと思いました。

C 全体的に授業の説明があやふやになってしまいました。自分が研究授業としてやらせていただいたところでは, 等号の書き方や左辺と右辺の入れかえや文字式の種類の多さなどで当たり前だと思っていることを疑問に思うので細かい説明が必要であると思いました。

そのためにもさらに授業について研究していく必要があると思います。

D 生徒を見て, 反応によって対応をかえること。それにより, 指導をかえ, 生徒の反応をみて…の繰り返しをし, 生徒とのコミュニケーションのとり方, 授業内でのキャッチ

ボールができていないため, もっと力を入れるべきだと思いました。

E ・もっとたくさんの生徒とコミュニケーションを取れるような能力
・生徒の興味を引くような雑学
・その生徒に応じた, 指導力
・授業での時間配分や, 板書の丁寧さ
・生徒間での話し合いの結果でた意見のまとめ方
・指名方法だけでなく, 発問の内容
・まわりくどい説明ではなく, カンケツな説明をすること

F ・日本語力
・教科の知識
・あたり前なこと (マナー, 業務など)
・生徒一人一人との距離感の掴み方

G 生徒の反応を予想した授業展開をしていくこと。生徒はいろんなところでつまづき, 理解出来なくなることが多い。生徒の反応を予想し切れずに授業が止まってしまったりしてしまうことが多いので, もっともっと予想を多くするべきだと感じた。

H 教科書の内容をしっかり理解する必要があると感じた。その日の授業ではどういう所に重点を置いて授業をするのか, 何を押さえた授業をするのかということの理解が弱かった。また, 自分は教科書の内容をなぞるだけで精一杯になってしまった。したがってもっと教科に対する知識をつけて, 「教科書を教える」のではなく, 「教科書で教える」ということを意識していかなければいけないと思った。

I おちついた授業は良い事ではあるが、メリハリが無く単調な授業であるという指摘を複数の先生から受けた。これは、大学の模擬授業でも言われていた事であり、修正すべき点であると考えられる。

J 授業力をもっと付けるべきだと感じました。授業を行う際50分間の中でもっと抑揚をつけないといけないと感じました。授業を進めようと専念するとどうも平坦になってしまう気がしました。そうすると、その教科が好きな生徒は集中できるのですが、嫌いな生徒にとってはたいくつな授業になってしまうと思います。少しでも、集中がもつような授業展開が出来るようにしたい。

K 授業においては時間配分をもう少し気にしながら授業ができるとよいと感じました。また、教材研究をもっとやる必要があると感じました。生徒指導においては至らない部分が多々ありました。朝のホームルームのときにどのように生徒を集中させるか。席替えをするときに、やりたくないという人もいれば、やり方も様々あり、それをどうまとめていくか、結果的に席替えをしたのですが、やりたくない人をどう納得させるか、納得しなかったときどう声を掛けるか等についてもっと考えていく必要があると感じました。

L ①授業を進みの遅い子に合わせているため、進みが早い子は待ちの状態が多くなってしまうため、あらかじめ入試問題などを用意しておくなどの授業準備について課題が残りました。
②教科書で使われている言葉をそのまま伝えるのではなく、いかに分かりやすく噛み砕いて伝えることができるかが今後の課題だと思います。

M ・数学の学力向上

実習中は高校1年生を担当したので、さほど苦労はしませんでした。教員になった時は、全ての学年を教えられる力が必要となるので、今以上に数学の知識・学力を向上させる必要があると感じています。

・物事を簡潔に伝える・教える力

実習中に感じた事は、とにかく時間が限られていると感じました。授業・SHRなど、生徒に伝えなければいけない事を時間内に明確に伝える力が必要だと考えます。

～化学科～

A 一番足りないなと思ったことは、身近なものに関連づけた話や生物や社会などの他科目・他教科に関連づけた話をするための知識がまだまだ足りないなと思いました。そういう知識をたくさん知っている先生は、伝え方も上手いですし、生徒の興味・関心の部分でも全然違ってきていたので、残りの学生生活でしっかりと勉強していきたいと思っています。

B 指導案の項目1つ1つの内容について何を書けばよいのか理解し、簡潔にまとめ、他の先生が見ても、本時に何を行い何を目的とし、そこで何を目標にしているのかわかる指導案作りを行い、それを自分自身が確認・意識し、実行する力が足りていなかった。

C 生徒たちに分かりやすい授業を行いたくても、実際に授業を行うと私の授業では伝えられないことがとても多くありました。なので、生徒たちに少しでも上手く教えられる力をつける必要があると思いました。この力は簡単に身につけられるものではないと思いますが、現場を通して身につけたいと考えます。指導教諭からのアドバイスがあつて、授業がよくできた面があるので、アドバイスなしで良い授業ができるような力も身につける必要があると考えます。

D ○授業力

・教科の本質を見抜く力

「この内容を通じて、何を教えたいのか」というのはいつも反省の中に出てきた。まだ見えていないところが多い。ここがわかっていないと、ただ知識を伝えるだけになってしまう。また、何時間にもわたって授業する際の全体の流れもわからなくなってしまう。

・発問力

発問を効果的に使えるようになると、生徒の思考を上手に引き出せる。また、「ここは」という発問はしっかりと考えさせたい。そのためには、「今日の授業の主題、つまり一番教えたい内容は何なのか」ということを考えられる力が必要になってくる。

E まずひとつめには、教科への理解不足が課題としてあります。生徒に誤った知識を教えないためにも、教科に対する深い見聞は必要不可欠であり、誤った説明をしないために、またより面白い豆知識を挿入するためにも、教科への理解をさらに深めていきたいと考えています。

ふたつめには、生徒とのコミュニケーションについての課題があります。これは授業の内外双方において課題であり、授業内においては、生徒の様子を把握した上で発問を行ったり、生徒のレベルを想定してから発問をする等、授業における有機的な対応が課題であり、授業外においては生徒との積極的な関係づくりが課題としてあります。

F もっと必要であると思った力は山ほどありましたが、その中でも特に授業力をつけたいと思いました。生徒を授業に引きつける人間力やトーク力であったり、生徒の発言や反応に対する対応力や話の引き出しを今後身につけ、より良い授業を作っていきたいと思いま

す。

G 専門的な知識をつけることは、本当に必要だと思いました。現場の先生方を見て、その知識量はすごく圧倒されました。生徒に教えるためには、その何倍も勉強しなくてはいけないと思いました。その他にも、コミュニケーション能力をもっとつけなくてはいけないと思いました。全然だめなわけではないのですが、日常の学校生活での関係作りが授業にも大きく関係してくる感じたので、もっとコミュニケーション能力を磨くとともに、もっと生徒にとって魅力を感じられるような人間、または教師になることができるよう、日々頑張っていきたいと思います。

～生物科学科～

A 教科に対する知識を教科書の内容理解+ α まで持っていないとならないと感じたので、さらに多くの知識をつける必要があると思う。また、生徒とのコミュニケーションで、生徒の情報を聞き出すための会話能力。

B 今回の教育実習を通して、自分の無力さを痛感し、もっと力をつける必要があると思うことが多くあった。教育実習以前から表現力が自分には不足していると感じていたが、今回のこの教育実習で改めて自分には表現力がないと実感した。わかりやすい授業をおこなうにはわかりやすく伝えることが大事であるので、表現力は欠かすことができない。今回の教育実習でもうまく伝えられたと自分では思っても、生徒には伝わっておらず、うまくいかなかった。実験・実習を行ったときも、生徒が何をやってらいいのかわからなそうにしていたので、生徒に伝わっていないこともあった。実験では危険なものを使う場合もあり、しっかり生徒に伝えないと生徒が危険な思いをするので、しっかり生徒に伝わるように注意していきたい。また、声が聞き取りに

くいこともあった。たまに黒板の方を向いて話すときもあるので、声を大きくしたり、生徒の方を向いて話したりしていきたい。他には生徒とのコミュニケーションの図り方がもっと力をつける必要があると感じた。教育実習が始まってすぐに生徒と話すことができず、コミュニケーションが図れなかった。時間が経つとだんだんとコミュニケーションが図れるようになるが、自分から積極的にコミュニケーションを図って、早く生徒と打ち解けるようにしていきたい。

C 普段の自分と学校にいるときの自分とでしっかりON, OFFをつけること。現役の先生方もおっしゃっていたが、教員は教員として演じなければいけない。授業以外で生徒とコミュニケーションをとるとき、1人の大学生、またはOBとして生徒と関わった部分があった。言葉づかいや立ち振る舞いなど、教員らしく行動する力がまだまだ足りないと感じた。また、授業に関しては、生徒に何を学ばせたいのかを明確にし、生徒が答えたことに対し、“なぜそう考えたのか”という問いかけをして、より生徒が考える授業を展開しなければならない。

D 生徒の立場に立った授業作りを行うこと。生徒達が今までに何を学んでいて力として持っているのか、今までのカリキュラムから知るだけではなく実態として把握することが十分にできなかったように感じる。

E 何よりも教科の内容に対する勉強が圧倒的に不足していたと感じた。教科書をながめて見れば、なんとなく知っている気になっているが教員として教えるために把握しておくべき知識は、教科書の知識を裏打ちする何十倍もの知識だった。さらにそれらを取捨選択してわかり易くつたえる技術を身につけなければならぬと思う。

F 話し方をもっと工夫するべきでした。わざと小さい声を出して注目を集めたり、大切な箇所は強調したりするべきでした。また、もっと発問の仕方に気をつけ、生徒が何を問われているのか明確にわかる発問をするべきでした。

板書については、大学の黒板よりも小さいサイズだったということもあり、授業内で黒板を消してしまうことがあったので、なるべく1回の授業で1枚の黒板におさまるような板書計画を立てるべきでした。

G 「周りを見る力」

他の先生方は、生徒の様子を観察していたり、他の先生の生活指導の内容を聞いていたり、色々な所にアンテナをのばしていた。

③「実習前の準備として大切だと思うこと」

(資料1①の質問用紙 問1-④の回答, 湘南ひらつかキャンパスの教育実習生28名)

～国際経営学科～

A 教育実習前は、できるだけ授業で行うであろう範囲の教材研究を行い、いつでも授業実習ができる準備をして、教育実習に臨むことが大切だと思います。

～情報科学科～

A 大学の模擬授業等をしっかり見て考えていられれば残りは教科書を読むだけで充分だと思う。ただし、教科書は自分の授業予定の場所だけでなく少なくとも実習の校種、できれば一つ前段階の校種のものを読んでおけると良いと思う。

B 教材研究だと思います。実習前に自分の授業する範囲が分かるなら聞いておき、「自分だったらこう授業する」を考えた方が良いと思います。これをやっておくと実習中もしっかり寝る時間を確保できます。

C 実習期間中は時間が限られているので、教材研究をしっかりすることが大切だと思います。学年でどのようなところまで授業を行い、どのような言葉で授業をしていけば理解出来るのかを考えておいた方がよいと思いました。中1では方程式がまだなので移項という言葉が使えず、どのように授業していくか悩んだので、教材研究が大切だと思います。

D あらかじめ指導案をいくつかかき、大学の先生に見てもらいました。普段の授業ではあまり指導案についてご指導頂けないため、指導案を見もらい、指導案の書き方や訂正の仕方を学ぶのは大切だと思いました。

E ・早起きする習慣を付けておくこと
・喫煙をしなくても大丈夫のように減煙し

ておくこと

- ・学校で使っている教科書の問や、例題は一通りやっておくこと
- ・教具を使う場合は事前に買っておく。
(方眼紙や、画用紙、マグネットなど)
- ・話題作り
- ・お世話になった先生がいないか、卒業アルバムなどを見て顔と名前を確認しておく

- F
- ・教材研究
 - ・アイデンティティの確立
(なぜ?で、物事を考える)
 - ・礼儀、マナー
 - ・経験値

G 心の準備。先生として実習を受けるので身だしなみや態度には特に注意をする必要がある。あとは授業ノートはまとめておくといよい。どのように板書をするかをノートにまとめておく授業はスムーズに進む。

H 教材研究はしっかりしておくべきだと思います。実習前のオリエンテーションでだいたいの範囲は聞かされると思うので、少しずつ準備をしていかなければいけないと思った。実習が始まれば参観や記録整理などにかなりの時間をとられるので、なおさら実習前の教材研究は大切になる。

- I
- ・体力を十分に蓄えておくこと
 - ・実習中の金銭面の不安を可能な限り排除すること
 - ・覚悟

J 教材研究をやるのは、大前提だと思います。事前に担当学年と範囲を聞いてその範囲

の知識をたくさん付けておくべきだと思います。それと、その範囲の指導案を作っておくと実習中に少し時間の余裕が出来ると思います。

K まずは授業の範囲の教材研究はとても大切だと思います。実習が始まってしまうとどうしてもそこに使える時間が少なくなってしまう。

生徒指導においては様々な場面を想定しておくと思いいます。これは経験してみないと分からないことかもしれないですが全く準備をしていないと何をしたらよいのか分からなくなってしまいます。心の準備だけでもしておいたほうが良いと思います。

L ①教材研究を行うことがもちろん大切であり、欲を言えば、なぜ教科書はこの例を用いているのかを考え、生徒に伝わるよう説明を噛み砕いて考えておけることが望ましいと思います。自分が初めて聞くときの気持ちに立ち帰り見つめ直すと良いと思います。

②教材研究を行う範囲は予定よりも前後数ページ余計に行っておくと実習が始まってから慌てなくて済み、生徒の時間をとることができます。

M ・一番力を入れたいことを明確にする。
・教科の知識以外の知識や経験

～化学科～

A 教材研究（教科書の内容だけでなく、いろいろな所へ関連した話）も出来るような準備をしておくと、もっと良い授業が出来ると思いました。教科でのことでも、それ以外のことでも、生徒たちにこういうことを伝えていきたいというのを、自分の中で持ってから行くことが大切だと、自分は思っています。

B 担当する教科、学年、範囲を自前に確認し、教材研究を行う、だけでなく、プリント学習、板書又はパワーポイントなのかの確認。範囲内の身近な例を準備しておくことと授業中の話題にできる。大学生活や、研究についても話す内容を準備しておくといい。

C 生徒たちの中には教える科目に苦手意識を感じている生徒もいるので、いつも以上に分かりやすい授業を行えるよう、授業内容の構成や使用教材の勉強をよくして、授業を準備することが大切だと思いました。更に、授業内でより一層演習が必要であったと感じる場面がありましたので、予定よりも多めの演習問題を授業内容に取り組みすることが大切だとも思いました。

D ・授業準備

期間中に授業で扱う範囲を聞いて、「こうやって教えよう」というのを具体的に考えておくこと。担当教員の先生と比較してみたり、相談して改善すると授業力がつく、と思います。

E 教材研究や指導案の作成など、実習前に必要な準備は枚挙に暇がありませんが、私個人の経験から言えることは、とりあえず、色々な人（できれば仲良い人）に教育実習のことを訪ねたり、話したりして気持ちの整理や情報の収集を行っておくことが大切だと思います。また、私は実習期間中、非常に多くのカロリーメイトを消費したので、カロリーメイトやそれに準ずる食品の備蓄を行っておくこともいいと思います。

F 予め、使用教科書や指導予定の単元を学校に確認しておき、念入りに教材研究をしておくこと。また、生徒のレベルに合わせられるように、いくつかの指導法のパターンを考えておくのも良いと思います。イラストや授

業内容のキーワード等をマグネットシートで作る等、小道具を準備するのも良いと思います。

- G** 指導案作成や模擬授業によって授業作りをしておくことも大切だと思いますし、しっかり勉強して豊富な知識をもっておくことも大切だと思います。しかし、私が1番大切だと思ったことは、授業で使えるネタをいっぱい用意しておくことです。やはり、まず生徒に興味を持たせなければ、どんなに素晴らしい授業をしても意味がありません。なので、授業に興味をもたせられるネタの準備が大切だと思います。

～生物科学科～

- A** ・教科書の読み込みと共に図説の読み込み
・すこし疑問に思ったことはそのまま流さず調べる
・使えそうな資料の準備（教科に限らず）
- B** 教育実習前、自分も不安で教育実習についていろいろ調べたがあまり役に立たなかった。教育実習前に何かをやっても不安が消えるわけでもなかった。授業で行う単元や内容がわかるのであれば、教材研究を行った方がいいと思った。自分はどこの単元や内容を教えるか知らされていなかったのも、何も準備することができなかった。専門分野の勉強に加えて、高校時代について、および、大学についてまとめておく。もしかしたら、聞かれるかもしれない。また、教育実習に向けて必要なものを準備しておく。スーツや靴ネクタイ、靴など身だしなみをしっかりするようにする。また、ノートパソコン、USB、参考書なども準備しておいた方がいいかもしれない。
- C** 自分が担当させてもらう範囲が少しでもわかっているのであれば、授業準備をしっかり

とすること。教材研究はもちろん、授業や普段のコミュニケーションの中で使える話のネタ、引き出しを増やすこと。

- D** 教材研究と、母校実習でない場合は、その学校の校風や特色を事前に調べておくこと。
- E** 何よりも教科の事前学習。教科書の内容について、大学レベルでしっかりと理解し、自分の言葉で説明できるようになること。学習範囲の内容について、メインストーリー（それをしたから何なのか、どのような意義があるのか）をしっかりと考えておくこと。
- F** 教材研究をしておき、範囲がわかっている場合は、その範囲の略案を考えておくこと。使用する教科書の出版を聞いておくこと。
- G** 「教科書の読みこみ」「教材研究」とにかくこの2つが大事だと感じた。

湘南ひらかキャンパス 教職課程免許取得者及び教職経験者数(1992～2013年度)

2014.10.1

卒業年度	経営学部		理学部				合計	
	国際経営学科		情報科学科		化学科		生物科学科	
	卒業者数	経験者数	卒業者数	経験者数	卒業者数	経験者数	卒業者数	経験者数
1992 (H4)	8	2	2	1	6	0	0	3
1993 (H5)	7	2	2	0	9	1	5	3
1994 (H6)	4	1	7	4	15	5	10	15
1995 (H7)	7	3	6	3	13	5	6	13
1996 (H8)	3	1	6	2	22	8	17	21
1997 (H9)	6	2	10	5	19	3	19	17
1998 (H10)	5	0	10	3	17	4	11	43
1999 (H11)	7	3	8	4	16	10	11	42
2000 (H12)	9	3	4	2	15	8	7	35
2001 (H13)	3	3	8	6	14	5	8	33
2002 (H14)	8	2	8	5	12	4	7	35
2003 (H15)	13	2	7	4	9	7	4	33
2004 (H16)	17	4	22	9	14	7	18	71
2005 (H17)	32	5	22	7	16	6	20	90
2006 (H18)	24	3	16	3	21	4	21	82
2007 (H19)	20	7	9	3	16	8	20	65
2008 (H20)	8	2	13	9	5	3	5	31
2009 (H21)	9	4	8	8	11	11	13	41
2010 (H22)	1	0	10	7	8	6	7	26
2011 (H23)	9	4	14	10	9	8	4	36
2012 (H24)	1	0	11	9	7	3	6	25
2013 (H25)	4	2	15	10	12	4	2	33
合計	205	55	218	114	286	120	221	930
％	27%		52%		42%		43%	
							41%	
							41%	

* 経験者数には、正規教員、臨時的任用教員、非常勤職員(講師)を含む。

* 赴任先の学校種は、小学校、中学校、高等学校を含む。

* 経験者数は、資格教育課程支援室(旧 教職課程指導室)に本人から連絡のあった数を示す。

* 本人から連絡のあった時点でデータを更新している。